

超まーじゃん娘!

SET.1



「やっほー♡

麻雀同好会へようこそ!」




「じゃ、さっそく始めよ?

強いて噂だけど

私だってすっごく強いからね?」

絶対負けないんだから!」



「もー！強すぎ！こんなに負けちゃうなんて初めて……
はあ……。……約束したもんね。
私の全部……見せてあげる」

「……え？ど、どうして
あなたも脱いでるの！
負けたのは私だよ？
う……っ。興味は、
無くは、無い、けど……」

「うわ〜…。」

「すごい…:こんなになっちやうんだあ…:
え?そりやパパのは見たらとあるけど、
こんなにおつきくは…:
ってもー!何言わせんの!」

「痛くないの?コレ…:
うひゃー!ピクンって動いた…!
え、ええ?舐める…:の?舌で…?
わ、わかった、やってみる…!」



「ぺろ…っ…っ…これで、良いのかな？
ん…さきっぱ、ツルツルなんだね…んむ…
あ、何か出て来た…れろ…変な味…」

「え？上手？
…えへへへ、そうかな。
そんなにきもちいいんだ、これ。
ぺろぺろ…れろっ♡」

「…ぷやっ…な…」
ふあ、あ、熱…ツ…ツ?

「ひやっ…うわわ、まだ出るのー!?!」



「ふああ…っこれ、せーえき…？
あんなに勢い良く出るんだ…
びゅーっ！って…びっくりしたあ…
口の中にも…ヌルヌル…」

「…え？最後まで？そ、そうだよな。
ファミンまでしちゃったなら、もう…
ま、待って、心の準備！
うう…、よしっ！」

「それが、入っ
ちやうんだ…
私の中に…
だ、大丈夫！
怖くなんか無いもん！
だから、来て…」

「あなたになら、
私の全部、あげる…」

「あ……っ！あー！はあ、はあ、
へ、平気、へいきだから……っ
好きに動いて良いよ……っ！
あ、あ、うあー！」

「はあっ、はあっ、あ、あーあー！
そんなはげし……ふああっ！
え、うん、いいよ、出して、
さっきみたいいに、びゅーって
私の、なか……あーあっあっあっ……
……あああーツ……！」

「はっ！はあ！はあっ
はあ…
あ、せーえき…
あったかい…
ふう…」

「全部、あげちゃったあ…あはは
も、しあわせそうな顔しちゃってえ！
えへへ…
…また、しようね？」

「あ、こんにちはお客様。
何か御用でしたらなんなりと……」

えっ……私と麻雀勝負？」

「私、麻雀は得意じゃないんですが……
どうしても……？」

うう……わかりました……。
お客様がそこまで言うんなら……はあ……」

「だから弱いって言ったじゃないですか…
この事は誰にも言わないでくださいー！
お客様の前でこんな姿に…
は、恥ずかしいですからあ…」

「ひ、秘密にしてもらえますか？
ありがとうございますお客様！
えっ…？そのかわりに…？
ええっ！？」



「そんなんあ、お、お客様困りますー！
おっぱいでーんな事……っ
ひゃああ、近いっ……」

「ええっ！？し、舌で……
な、舐めるんですか！？
わ、わかりました……
うう……お、おっきい……」



「べろ…れろ、ちゅぱ…っ
ぶは…っ、どうしてこんな事に…
ぜ、全体を舐め回すんですか？
わかりましたあ…べろん…んちゅ」

「ぶあ…っ、乳首、らめれすう…
もう…許してくらひゃい…
れろ…ちゅ、ぶや…
え、ええ？出るって、ちよっ
と待っ…！」



「はあはあ、うう…酷いですう…顔に出すなんて…うう…
こ、これで許していただけますか…?」

「ええ〜!
ゆ、許してもらえないんですかあ!
どうすれば…?え…?
う、うう…はい、わかりました…」



「あっ、あっあっあっあっ！ふあっ！
お、おきやく、さま、
も、もう許して…くださいい…っ
うあ、あ、あっ！」

「そん、な、激し…あっ
わた、し、壊れちや、いま、すう…っ！
あ！あっ！あ！あっ」

「うっ…あっ！ふあ！は…っ、けふっ…
お願い…です、この事は誰にも…
はあ、はあ…なんでも、お客様の言うこと、
ききますから…」

「わ、わかりました…私は、
お客様の従順なメイド、です…
これから、ずっと…」



「え？私と麻雀で勝負したいの？」

「ふふ♡いいけど…私、強いよ？」



「凄い！麻雀強いよね。
とうとう全部脱がされちゃった」

「私、強い人好きなの…。
ほら、してる間ドキドキしちやっ
てこんな…。恥ずかしいな。
でも、あなただっ…。ふふ…」



「対局中、ずっとコココおっきくしてたの、
知ってたんだから。
私が服を脱ぐの見て、こうなっちゃったの？」
ふふっ♡」

「凄いな……こんなに硬くしちやっで。
もう先っぽヌルヌル。ふふ。
ねえ、こうすると……
オチンチン気持ちいい？」



「えっ？出そう？もう？
ダメ。我慢して。
まだ始めたばかりなんだから」

「ほら…頑張ってる？
クチュクチュクチュクチュ
エツクナ音…。ふふ♡」



「ぎやーん、ぶあっ……！」

「出しちゃダメって、言ったのじゃない」

「やん、

まだ出る……すげー♡……♡」



「ふう…やっとなまったね。」

麻雀はあんなに強いのに早漏だなんて…
少しガツカリかな？」

「もう、そんな顔しないで。」

せっかちな

早上がりオチンチンでも

連荘は出来るでしょ…？」

ほら…また硬くなって
来ちゃった♡ふふ♡」

「ほら…入っちゃったよ？
あなたのオチンチン、全部…私の中に。
今度はすぐピュってしないでね？」

「あん…♡ふふっ。
したかったんでしょ？私と。
私だって、対局中ずっと…。
あ、ふあ、素敵…」

「あっ！あ♡あん♡素敵、
気持ちいい…ふあ♡
ねえ、あなたも気持ちいい？
ふふっ…あ♡」

「あー！イク♡イクよ？あなたもイッて？
いい♡お♡出して、中に、あ、あっあっ♡
…んく…っ…！ふああ…ッ…！」

「はあ、はあ…はあ…はあ…うふふ
イツちやったあ…。
あなたも…ふふ、いっぱい出したね…」

「でも、まだできるよね？
こんなんじゃないんだから。
ね、このままもう一回…♡」